

「へー」と連鎖の展開のかかわりについて

—第三の位置に用いられる「へー」を中心に—

関玲(筑波大学大学院生)

1. はじめに

「へー」は新たな情報を受け止めたことを示す際によく使用される言語資源の1つであり(富樫 2005, Hayashi 2001 など), その産出の位置及び産出の仕方によって働きが異なっていることが明らかにされている(Mori, 2006). 「へー」が産出される様々な位置の中で, 本研究では, 「質問—応答」の隣接ペアの後, つまり連鎖の第三の位置に用いられる「へー」に焦点を当て, 「へー」の相互行為上での働きを明らかにしたい。

第三の位置に産出される「へー」について, Hayashi (2001)によると, 「へー」は応答の部分の中に新たな情報が含まれていることを示し, 先行する隣接ペアを収束させる働きを持っている(Sequence Closing Third: SCT). その一方, Mori (2006)では, 応答が産出された後, 特定の韻律特徴を持っている「へー」が用いられることによって, 応答についてさらなる説明が求められると応答者に認識され, 「へー」の後に応答者が応答を修復することがあると述べている。しかし, 上記の先行研究はいずれも1つ長い語りの中に挿入されている連鎖を対象として記述を行っており, 第三の位置に用いられる「へー」の相互行為上での働きを全て明らかにしているわけではない。そこで, 本研究では, より多様な連鎖環境における第三の位置の「へー」を分析対象とし, 第三の位置という特定の位置になぜ「へー」が用いられるか, また, 「へー」が用いられることとその後の連鎖の展開とどうかわっているかを明らかにすることを目的とする。

2. データ及び分析方法

本研究で用いるデータは, 筆者が収録した対面会話(計約190分)及びTALK BANK(talkbank.org)内のCALL HOME Japanese コーパスという電話会話である。データの中から, 「へー」が「質問—応答」連鎖の後の第三の位置に用いられている事例を取り上げ, 会話分析を用いて分析を行う。

3. 分析

事例分析を通して, 以下のことが明らかになった。まず, 第三の位置に「へー」が用いられる場合, 基本的な働きとしては, 応答が「へー」の産出者にとって何か想定外の情報を含むものであり, それを受け止めることにより, 「へー」の産出者は, 自分の認識がある側面において更新され, 変化したこと(Heritage 1984)を示している。

また, 「へー」によって想定外の情報が受け止められたことが示された後に, 質問—応答連鎖はそれによって収束され(SCT), その次の連鎖では, 何か新しいことが開始されることが推測される。しかし, 本研究で収集したデータの観察により, 「へー」が産出された後, その次の連鎖では, 何か新しいことが開始されることが少なく, それより前の連鎖と何らかの関連性を持っていることが開始され, それによって前の連鎖が展開されていくことが多いとわかった。

「へー」が産出された後に, 「へー」に先行する連鎖は以下のように展開されている。①話者(「へー」の産出者)は応答にある表現を繰り返すことによって前の連鎖を展開させる。②「理由を尋ねる—理由を説明する」連鎖の性質によって, 話者は「へー」を産出した後, 応答についての理解を説明することで前の連鎖を展開させる。③話者は独特の韻律の「へー」を用いて, 想定外の情報に対して意外性を強調的に示すことによって, さらにそのことについての連鎖を展開させる。以下では, 実際の会話例を用いて, 「へー」の基本的働きを確認し, 先行する「質問—応答」連鎖の性質や「へー」の産出の仕方が, どのように「へー」によって開始される第三部分以降の展開を導いているのかを詳細に分析する。まず, 断片(1)を見てみよう。

(1) [callhome_2053 3:34~] ((アメリカにいる娘(B)と日本にいる母親(A)との会話である. AはBにBの兄弟ナオキが「病院で働くことが決まった」話を伝えている. 01~06行でAはナオキが行く病院の場所を報告している.))

01 A: それであの:::あれ

02 (1.6)

03 A: 三か所ぐらい(.)ね.

04 B: う:ん.

05 A: やっぱり行く場所が決まってて:

06 B: う:ん

07 (0.2)

08 A: それで:やえず¹のほうに.

09 (0.6)

10 B: あ:じゃ研修?

11 (0.6)

12 A: うんそう. 半年ぐらいあるらしいね.

13 (0.4)

14 B: へ:::半年したらまた医局に[戻るの?

15 A: [あ:ちょっとわかんないけどね.

Bは08行目でAの報告を「あ:」と受け止めた後に、「じゃ研修?」とナオキが「やえず病院」で研修をすることについて確認している. この質問に対して, Aは10行目でまず「うんそう」と肯定的に答え, その続きで「半年ぐらいあるらしいね」とさらに働く期間という情報を提供している. その答えに対して, Bは12行目で「へ:::」とAの答えに新たな情報が含まれているものとして受け止めている. これによって, 08行目より開始される質問-応答連鎖は収束されると思われる. しかし, 「へー」が産出された後のBの行動に注目されたい. Bは「へ:::」を産出した後に, 間髪を入れず, すぐに次の質問をしている. また, Bはここで何か新しいことについて質問をしているのではなく, Aの応答にある「半年」という表現を繰り返すことによって, 前の連鎖と関連性を持たせて質問をしている.

断片(1)のように, 話者は第三の位置で「へー」を産出し, 応答を何か新たな情報が含まれているものとして受け止めたことを示すことによって, 先行する質問-応答連鎖をいったん収束させるが, その次の連鎖で全く新しいことを開始するのではなく, 前の連鎖と関連することを開始することによって, 前の連鎖を展開させていく.

次の断片(2)においても, 第三の位置で「へー」が産出された後に, 話者は前の連鎖と関連する連鎖を開始している.

(2) [美容師] ((断片の前, Aは会話収録日の前日に行った美容室の美容師との会話の内容をLに伝え, その中に「大体美容師はずっと同じ店舗にいることがない」という話があった.))

01 L: なんでそうやって美容師ってこう転々としてくんですかね.

02 (1.4)

03 A: ていうのそう, 聞いたんだ[けど, 昨日も. (0.5) あんまり (0.4) 深く話してくれ[なくて:::

04 L: [うん

[う::ん

05 (1.7)

06 A: でも (1.0) 雰囲気的にはなんか嫌になってやめる[みたいな

07 L: [へ:::.....hh でもきっと合わなくなってくんですよね. その²

08 (0.4)

09 A: ん::: (0.4) あっ.hh その

¹ 「やえず」は病院の名前である.

² Lは自身が言っていた「きっと合わなくなっていく」ことを説明しようとしているが, 言いよどんでいるため, 09行目でAはLの発話の続きを産出している.

01 行目でLは美容師が転々としていく理由についてAに尋ねる. その質問に対して,Aは03 行目で答えているが, 理由の説明には至っていない. よって, Lは04 行目「う::ん」と反応し, Aの答えを聞いたスタンスを示しているが, その答えに納得していない様子がうかがえる. そして, 1.7 秒の間合いの後に, Aは06 行目で「でも」と言い, 03 行目で答えたこととの対立を示した後,「雰囲気的にはなんか嫌になってやめる」と答えている. これを聞いたLはAの発話と重ねて「へ:::::」と産出し, Aの応答を新たな情報, 想定外の情報として受け止めたこと示している. ここで, 注意したいのは, Lが「へー」を産出した後の行動である. Lは「へー」を言った後に, 吸気して,「でもきっと合わなくなってくんですよね」と06 行目の応答についての理解を示している. では,「へー」が産出された後に, 連鎖はなぜそのように展開されているだろうか.

「理由を尋ねる一理由を説明する」連鎖では, 第二部分で理由が説明され, その次の第三の位置でその理由を受け入れるスタンス, つまり「納得」を示すスタンスが示されることが期待される. 断片(3)の場合, Lは07 行目で例えば「あーなるほどね」のような納得を示す言語形式が用いられていれば, 01 行目から開始された「質問一応答」連鎖それによって収束されると思われる. しかし, 断片(3)では, Lは07 行目で「へ:::::」を用いて, Aの応答を想定外の情報として受け止めたスタンスしか示しておらず, それ以上のスタンスを示していない. そのため, Lは「へー」を産出した後, 自身がどのような視点からその想定外の情報を理解しているかを説明することを通して Aの応答を受け入れることが期待される. つまり, この断片においても, 話者は「へー」を産出した後, 次に「応答」を受け入れるための理解を示すことによって, 前の連鎖と関連のある連鎖を展開させている.

さらに, もう一点記しておきたいのは,「へー」が産出された後に, 話者が自身の理解を説明する前に対立を表す「でも」を使用している. 話者は前の応答を「へー」で受け止める以上, その応答が話者にとって想定外の情報として受け止められると認識される. しかし, 話者がその次にその想定外の情報を理解し, 受け入れるスタンスが示されている.「でも」が用いられているのはその前の認識とその次のスタンスの違いが対立していることに志向している.

断片(2)のように,「理由を尋ねる一理由を説明する」連鎖の性質によって, 話者は「へー」を用いて応答を想定外の情報として受け止めた後, その次に応答を受け入れるための理解を説明することで前の連鎖を展開させている.

次の断片(3)では, 話者は独特の韻律の「へー」を産出することによって,「へー」に先行する連鎖を展開させている.

(3) [callhome_1966_4:47~)((アメリカに滞在しているAと日本にいるBとの会話である. Aは仕事をしている主人についてアメリカに来ていようである. 断片の前にAはアメリカの物価が安いと話し, アメリカに来たばかりの時に洋服をたくさん買ったと話した. それを聞いたBは「日本と同じ給料をもらっていたら, 断然生活が楽じゃん」と評価した. その評価に対して, Aは「だけど(お金が)たまらないんだよね」といった.))

01 A: 笑っちゃうぐらいたまらないんだよね.hehe

02 B: 何使ってるの?

03 (0.4)

04 A: °う[:::~::~ん:::°

05 B: [なん-結局(0.4)洋服買った?]

06 A: [.h洋服は買っていないんだけど,学費かな:::]

07 (0.3)

08 B: あん:[:::~::~:]

09 A: [いつ [だいたい2[ヶ月の:

10 B: [うん

11 B: うん

12 (0.3)

13 A: あのわたしの学校なんだけど[.hh2ヶ月で10万円なのね::(.)1000[¥ドルなの.¥hehe

14 B: [うん [hhh

15 (0.3)

16 B: .hh(0.2)へ:::~::~:それってその.hh何時間だけの[講義でしょう.

17 A: [2時間だけのコースなんだけど::]

01 行目でAはもう一回「お金がたまらない」ことを笑いながら報告している。その報告を受けたBは02 行目でAがなぜお金がたまらないかについて、Aにお金を何に使っているかを質問している。この質問に対する答えがなかなか産出されない(03, 04 行目)ため、Bは05 行目で「洋服を買ったり」とお金の使い道の候補の1つを挙げてもう一回質問を修復している。その修復された質問に対して、Aは06 行目でBが出した候補を否定した後、「学費かな」と簡潔に答えている。Aがなぜお金がたまらないかという質問に対して、学費がいくらかかるかという説明がないまま、「学費かな」という答えだけでは不十分である。それによって、Bは08 行目でAの答えに対して、「あん:::」と「聞いている」という反応をしているが、納得していない様子がうかがえる。また、応答者A自身も06 行目の答えが不十分であることを認識し、出来るだけ早く「学費」に関する説明を行おうとしている(09 行目)。その説明は13 行目まで続いており、特に13 行目でAは「2ヶ月で10万円, 1000ドル」かかると具体的に学費の金額を説明している。その説明を受けたBは16 行目で「へ:::」とAの応答を新たな情報として受け止めたとし、また、ここでBは「へー」を引き延ばし、後半のイントネーションをあげることによって、Aの応答に何らかの意外性を感じていることをマークしている。そのため、Bは「へー」を産出した後、間髪を入れず、「それって」を用いて前のAの応答に照応させ、Aの応答に関連する質問を産出している。つまり、Bはこの質問を通してAの応答に関連付けさせて、前の連鎖を展開させている。

このように、話者Bはここで独特の韻律(上昇イントネーション)の「へー」を産出することによって、前の連鎖をそのまま収束させるのではなく、応答に意外性を感じることをマークすることによって、次の連鎖でどこにその意外性を感じているかを示す機会を生み出している。実際、この断片では、Bは「へー」を産出した後に、質問を通してどこに意外性を感じているかを明確に示している。また、「へー」の前の連鎖はそれによって展開される。この点について、Mori (2006)においても同様の記述が見られる。しかし、Mori では、「へー」が産出された後、応答者が応答について修復を行う事例を取り上げている。しかし、断片(3)の場合、「へー」の産出者自身が「へー」を産出した後、すぐに応答に関する質問をすることによって前の連鎖を展開させている。いずれにしても、話者は独特の韻律の「へー」を産出することによって、前の連鎖をさらに展開させる可能性を生み出していると考えられる。

4. おわりに

以上、3つの断片を用いて、「質問-応答」連鎖の第三の位置で用いられる「へー」とその後の連鎖の展開とのかかりについて述べてきた。この3つの断片の分析を通して、まず、共通して観察できたのは、話者が「へー」を用いて応答の部分を想定外の情報として受け止め、自身の認識がある側面において更新され、変化されたことを示している。

また、「へー」がSCTとして産出されているにもかかわらず、「へー」の産出者はその次の連鎖で、前の連鎖と関連する連鎖を開始することによって前の連鎖を展開させていることが観察された。そもそも、質問に対する応答は、質問者が持っていなかった情報を提示するものである。しかし、その応答を「意外性」や「想定外であること」を標示する形式を用いて受け止めることは、単に質問者と応答者の間の認識の差が埋められたということ以上のことを示しているがゆえに、引き続きそのことについてのやりとりが展開される可能性を生み出しているといえる。

今後より多くの事例を分析し、質問-応答連鎖の後に用いられる「へー」の相互行為上の働きを深く考察していきたい。

参考文献

- Hayashi, Makoto. (2001). *Postposition-initiated utterances in Japanese conversation: an interactional account of a grammatical practice*. In: Selting, M., Couper-Kuhlen, E. (Eds.), *Studies in Interactional Linguistics*. John Benjamins, Amsterdam, 317-343.
- Heritage, John. (1984). *A change-of-state token and aspects of its sequential placement*. In: Atkinson, J. M., Heritage, J. (Eds.), *Structure of Social Action*. Cambridge University Press, Cambridge, 299-345.
- Mori, Junko. (2006). *The workings of the Japanese token hee in informing sequences: An analysis of sequential context, turn shape, and prosody*, *Journal of Pragmatics* 38, 1175-1205.
- 富樫純一 (2005). 「へえ」「ほう」「ふーん」の意味論 大修館書店, 34(11), 22-29.
- 連絡先: guanling626@gmail.com